



マレーシアへ短期留学

芦高生3人を派遣

荻原貢市長
を敬訪問 語学研修の意欲語る

【芦別】芦別高の海外短期留学派遣事業に参加する生徒3人と学校関係者が13日、市役所を訪れ、荻原貢芦別市長を敬訪問した。生徒と引率教員は、1月6日から12日にかけて、マレーシアを訪れ語学研修プログラムを体験する。

芦別高では、これまで語学研修を目的としたオーストラリアへの短期留学派遣事業を行っており、コロナ禍で一時期中断していた

が、昨年からの派遣先を英語を共通語とする多民族国家であるマレーシアに変更し、再開した。本年度は2年生の水上葵さん、1年生の佐藤聡太さんと原悠翔さんの3人が応募し、面接等を経て派遣が決定した。

水上さんは「マレーシアと日本の物産の違いを知りたい」、佐藤さんは「いろいろなマレーシアの料理を食べてみたい」、原さんは

「生物に興味があり、両国の生きものの違いを学び理解を深めたい。特に国立動物園で飼育されているマレー

バクの見学が楽しみ」と抱負を語った。生徒たちの思いを受け荻原市長は「異文化に触れるということは貴重な体験になる。楽しみながらたくさんのことを学び、実りの多い旅にしてほしい」と激励した。【村澤由香里】